

個人の能力を最大限に引き出す

学修スペースとサポート体制

能動的学修支援センター



能動的学修支援センターに属する言語異文化学修センターには、個人の能力に応じた学修ができるよう、DVDブースや、多目的ルーム、オープン学修スペースを整備

【ポイント】

自分で選び、自分のペースで学修できる環境とサポート

多様な学修スペースを整備

- リーディングやライティング、試験対策等のためのエリアや、DVDや海外放送が視聴できるエリア、発声練習等ができる防音機能を備えた個別ブースを整備。
- Skypeを通して他大学学生とのディスカッションも可能な多目的ルームを整備。



ガラス張りで活動の様子が見える多目的ルーム

41言語の多様な教材を配置

- DVD、リスニング・スピーキングソフト、小説、語学検定試験対策本等、様々な媒体、難易度の教材を配置。

学生同士の学び合いの仕組み

- 学修達成センターでは学生による個別学修支援を実施。
- 言語・文化を相互に学ぶため、留学生と日本人学生がペアを組む「会話パートナー」プログラムを実施。

カリキュラムとの連携

- 英語で学ぶための英語力を養成する「英語集中プログラム（EAP）」では、各学生が言語異文化学修センター内で一定時間学修することが、カリキュラム上、課されている。



主にEAPの学生に利用されるリーディング教材が並ぶ棚
難易度別に並んだ教材から、好きな冊子を選ぶ

整備による効果

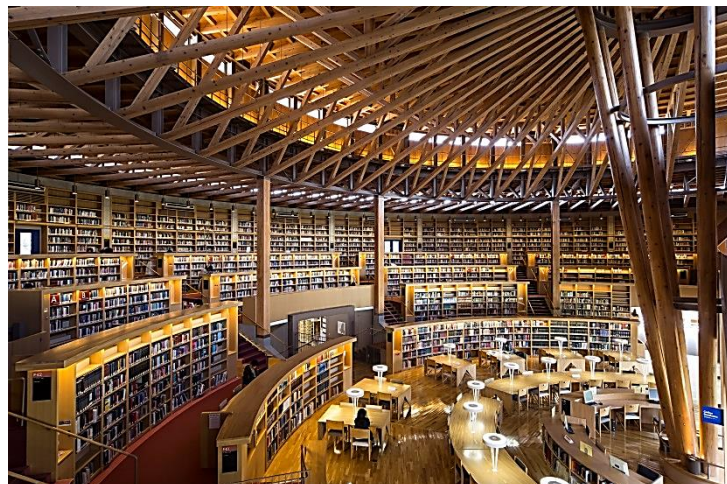
英語能力の底上げ

- EAPのクラス分けの目安や修了、留学の要件の一つとして、TOEFL が位置づけられている。
- 言語異文化学修センターには、TOEFL に関する教材が充実。学修達成センターではチューターによるTOEFL 対策のサポートも行われており、顕著な効果がみられている。



キャンパス全体での自律学修

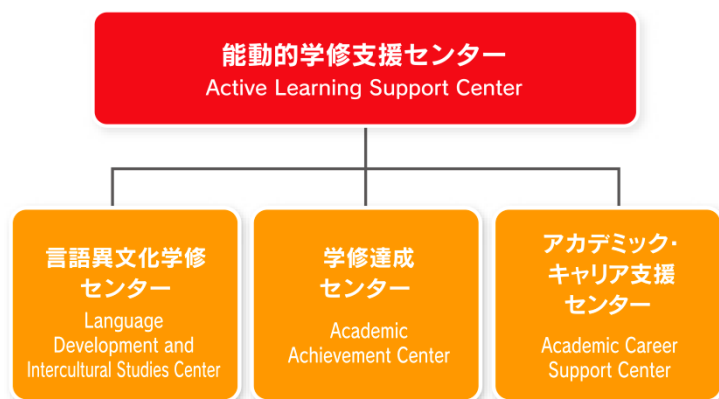
- 能動的学修支援センターのサポートにより、学生は個人の能力や目的に応じた学修方法を身に付けることができ、図書館や、授業外では学生に開放されている通常講義室等、キャンパス全体を活用した自律的な学修が促進されている。



「いつでも勉強ができる環境を提供したい」という大学の思いが込められた図書館は、「本のコロセウム」をテーマとした半円形のユニークなデザイン
学生、教職員は 24 時間 365 日利用できる

整備の背景・目的

- 国際教養大学は、「国際的に活躍できる人材の育成」を目指し 2004 年に開学し、国際教養教育において基礎となる「英語で学び、英語で考える」ツールとなる英語力育成のため、2008 年に「言語異文化学修センター」を設置。
- 2013 年、学生の自律学修と自己効力感の育成を支援することを目的に、「言語異文化学修センター」に、「学修達成センター」「アカデミック・キャリア支援センター」を加えた 3 つのセンターで構成する「能動的学修支援センター」を開所。



更なる展開

24 時間リベラルアーツ教育

- 2014 年、文部科学省の「スーパーグローバル大学育成支援事業」の採択を受け、10 年をかけて「日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジ構想」への取組を行う。

取組の一例

- 現在も全学生の 90% が学内の寮やアパートで留学生と混住しているが、今後「教育寮」としてテーマ

- 別ハウス群を導入予定であり、24 時間リベラルアーツ教育を推進している。
- 海外提携大学との単位互換可能な講義を更に充実していく予定。